

今月の御教え

此方の道は傘一本で開くことが出来る。

……金光教祖御理解 第八十九節……

解説

教祖金光大神様は、信徒の中でも篤信の神徳のある者には「自身が御蔭を頂いたことをもとにして、世の人々を助けてあげなさい」と、教祖様に習って取次の御用に立つことを命ぜられることがありましたが、中には、「とても私の家のような狭い粗末なところを神様の御広前にして取次の御用をするのは勿体ない恐れ多いことであります」と申し上げる方も少なからずおられました。

その時に教祖様は「立派な広前でなくては人が助からぬとか御比礼が立たぬとかいうことではない。家が立派でなくても粗末であるうとも、例え一本の傘の下であっても、この道の真の教えを伝えて聞く人に有難い思いが伝わればそれで人が助かり道が開ける。それがお蔭のたつ根本である」と申されたとの御事であります。「真に有り難しと思ふ心、すぐにみかげのはじめなり」の御教えにも通じる御理解であると拝されます。